

男女共同参画推進の新体制が発足しました

男女共同参画推進センターでは、深澤佳代子学術研究院保健学系教授／学長補佐をセンター長とした新体制で男女共同参画推進活動をスタートさせています。

センター長あいさつ



男女共同参画
推進センター長
(学術研究院保健学系教授
／学長補佐)

ふかさわ かよこ
深澤 佳代子

平成30年4月1日に信州大学男女共同参画推進センター長を拜命致しました医学部保健学科深澤と申します。

当初各学部のワーキングチームから発足した信州大学男女共同参画推進センターの活動は足掛け11年目となります。この間、山沢前学長による男女共同参画推進委員会の設置、濱田学長によるイクボス宣言、初代センター長松岡教授を始めとする高崎教授、坂口教授と歴代センター長が御尽力された子育てをしながら働く教職員への支援や女性研究者へのサポートなど学内の活動に留まらず、厚労省や内閣府のポータルサイトへの参画など学外へも活動範囲を広げています。

現在、各学部が意識啓発部門、女性研究者支援部門、W.L.B推進部門の3分野で協働しセンター活動を支えています。

濱田学長から辞令をいただいた際に、「男女関係なく活き活きと働ける信州大学を目指してほしい」というお言葉を頂戴しました。折りしも、現在、働き方改革法案が審議されています。歴代のセンター長が力を注がれた働きやすい職場環境づくりと同時に是非、教職員や学生が興味を持てる信州大学男女共同参画推進センターをめざしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

各部門の実施事業内容

意識啓発部門

- ・男女共同参画に関する授業の充実
- ・オープンキャンパス時の啓発活動
- ・啓発セミナー等の開催
- ・ウェブサイトによる情報発信
- ・スフレ通信・ロールモデル集・報告書の発行

女性研究者等支援部門

- ・研究補助者制度の実施
- ・メンター制度の普及
- ・育児休業等取得者に対する業績評価の取扱
- ・人材育成のための研修実施

ワーク・ライフ・バランス推進部門

- ・時間外労働の縮減
- ・年次休暇の取得促進
- ・育児休業、介護休業、短時間勤務制度等の利用促進
- ・入学試験等における一時保育等の実施

新委員のご紹介



学術研究院医学系准教授 福島 菜奈恵

信州大学で働くすべての方にとって、個性と能力を十分に発揮することができる環境が維持されるよう取り組んでいきたいと思っています。



学術研究院保健学系准教授 高橋 宏子

4人の子育てを経て、現在に至っています。両立するには職場や家庭の理解と協力が不可欠です。よりよい環境づくりについて一緒に考えてまいります。



学術研究院医学系(附属病院)助教 由井 寿美江

性差や年齢を認め合い「わたし」らしい活躍ができる場とは？皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



医学部附属病院信州がんセンター緩和部門教授 間宮 敬子

前任地の旭川医科大学でも復職・子育て・介護支援、二輪草センターの副センター長を拝命しており、今回この職に就くことができ欣幸の至りです。ご期待に添えるよう精一杯努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



医学部附属病院主任診療放射線技師 村山 寛朗

男女共同参画社会を実現するために、少しでもお役に立てればと思います。よろしくお願いたします。



農学部総務グループ主査 下林 陽史

男女共同参画の仕事は初めてですが、固定概念にとらわれない新しい取組に携わっていきたく考えていますので、よろしくお願いたします。



総務部長 東間 美博

働き方改革法案成立が成立しました。多様な働き方を選択できる社会を実現し、一人ひとりがよりよい将来の展望を持てるように部門として取り組んでまいります。

共通教育「キャリアビジョンと男女共同参画 ～誰もが輝く社会を考える」が開講

この授業も3年目を迎え、さらに充実した内容となっています。さまざまな学部の先生が、各専門分野を「ジェンダー」「男女共同参画」という視点で切り取った授業は学生の満足度も高く、授業を通して関心を持ったテーマを掘り下げ、最終授業ではそれぞれグループ発表を行います。

今年度は多くのゲストスピーカーもお招きしました。

以下の3回の授業については一般公開で行い、登録している学生以外にも多くの学生や一般のみなさんにお聞きいただき、意識啓発のよい機会となりました。

5月16日および30日の授業は浜野理事に担当いただき、両日とも学生たちにロールモデルを身近に感じ、自身のキャリアについて考えてもらうことができました。

授業のまとめとして行ったプレゼンテーションでは、それぞれが関心を持った分野について発表し、活発な質問や意見交換がされました。LGBTについて発表した学生は、「LGBTについて学んだ『私たち』が発信していく必要がある」と述べ、この授業を通して学生が理解を深めたことを実感しました。



浜野理事

5月16日 「女性リーダーとなるために」

ゲスト：中島 恵理（長野県副知事）
金子ゆかり（諏訪市長）
原 薫（株式会社柳沢林業代表取締役）

長野県内で活躍中の女性リーダーをお招きし、パネルディスカッション形式で体験談をお話いただきました。



5月30日 「働きながらチャレンジしよう」

ゲスト：小平 奈緒（相澤病院）
北村 明子（人文学部准教授）

「オフ」の時間についてお聞きしました。

いろんな方と会って思考を巡らしているとき、自分の感情が動き続けているとき。思考が巡り、自分の中で学びがあるものであれば、心地よく、今はそれが心の“オフ”になっています。逆に“オン”は何かをやらなければいけない状況ですね。



小平選手

違うジャンルの方と会うことです。母の介護をしてくれる看護師さんをみて「こういう動作は体が喜ぶな」「こういう言葉を使うんだ」とか。自分が考え得ないこととか、普段忘れていたことがふっと頭に入ってくるとすごくいい時間感じますね。



北村先生

人それぞれ“オフ”の感覚が違うんだと気づかされました。“ワークライフバランス”をとるために、自分の“オフ”を考えてみることもひとつの方法かもしれませんね。

6月6日 「セクシャルマイノリティ LGBTと男女共同参画」

講師：星野 慎二（特定非営利活動法人SHIP理事長）

「からだの性」「こころの性」「性的指向」の組み合わせにより、多様な性があることを説明された後、セクシュアルマイノリティのこどもたちの悩みについて話されました。

ロールモデルが身近におらず、「自分と同じ人っているのだろうか?」という孤独感を抱えています。そうした問題は本人の問題ではなく、「周りの問題」です。環境を整えば自分らしくいられるのです。みんながアンテナを高く張り、情報を得るためにもこうした研修を継続していくことの必要性があるのです。

平成30年度
男女共同
参画授業担当



日程	概要	担当教員	所属
4/11	男女共同参画とは	松岡 英子	信州大学名誉教授
4/18	信州大学における男女共同参画の取り組み	松岡 英子	信州大学名誉教授
4/25	平等とは何か、人権とは何か	加藤 善子	高等教育研究センター
5/ 2	科学研究とジェンダー	中島 美帆	理学部
5/ 9	男女雇用機会均等法と社会保障制度における女性の地位	島村 暁代	経法学部
5/16	女性リーダーとなるために	浜野 京	信州大学理事
5/23	男女格差の構造	加藤 善子	高等教育研究センター
5/30	働きながらチャレンジしよう	浜野 京	信州大学理事
6/ 6	セクシャルマイノリティ / LGBT と男女共同参画	星野 慎二	特定非営利活動法人 SHIP 理事長
6/13	料理とジェンダー	高崎 禎子	教育学部
6/20	男女共同参画と関係法規	三枝 有	経法学部
6/27	ワークライフバランス	間宮 敬子	医学部附属病院信州がんセンター
7/ 4	未来の家族を考える	香山 瑞恵	工学部
7/11	男性と育児	坂口けさみ	医学部保健学科
7/18	プレゼンテーション（まとめ）		
7/25	課題レポートの作成と提出		

工学部長 天野良彦教授にインタビュー

平成30年4月1日付で工学部長に就任された天野先生に、工学部における男女共同参画の現状や今後の取り組みについて、深澤佳代子センター長がインタビューしました。

Q 天野学部長ご自身がお考えになっている工学部における男女共同参画の方針をお聞かせください。

基本的なところとしては、お互いを尊重しあう体制というのが大事な、と。面と向かってしっかり話をすれば解決することが多いと思うので、「向き合っ」というのが大前提だと思います。

具体的な取り組みとしては、「女子用の寮」を作っています。若里寮を改修して4階部分を女子寮にして、この10月に入居できるよう準備を進めているところです。

以前から、女子学生の要望として「更衣スペースがないので、ほしい」との声がありました。実験の際には“つなぎや白衣”に着替えて行うことが多いので、今スペースの確保も検討しているところです。女子学生の比率が高くなることを見越して、今後も女子学生へのサポートを考えていきたいですね。



あまの よしひこ
天野 良彦
工学部長

Q ワークライフバランスの推進も男女共同参画の大きな柱ですが、将来的にどういう方向へ向かおうとお考えですか。

勤務時間が長い人が多く、そこは改善しなければと考えています。そうはいつでも仕事を減らさなければ掛け声だけかけても、難しい。一緒に仕事して1+1=2ではなく3以上になるような仕組みを考えていかなければいけないのかなと思います。

人員削減を実施しているので、人材はギリギリです。どこかスクラップアンドビルドしなければなりません。学部だけで閉じないで、外部と一緒にできることをやりながら方策を探る時期にきていると思います。他学部、他大学。教育に関するものでいえば、授業をクロスで行うとか。お互いにメリットがある形で仕事をカバーできるような、そういう体制をこれから考えていかなければいけません。そうしないとどんどん時間がなくなって、自己実現ができなくなりますよね。

Q 今後さらに改善したい点等があれば教えてください。

もう少し女性教員が増えて、女子学生のサポートをしていければいいなとは思っています。そのためには女性が確実に取れるポストを作らないといけません、その点についてはもう少し検討が必要です。

専門分野で募集しても女性教員の応募がないといった現実もあります。専門ではなくても、基礎教育とか専門科目ではない実践教育も必要となると思うので、そういうポストも必要となってくるのではないかと考えています。

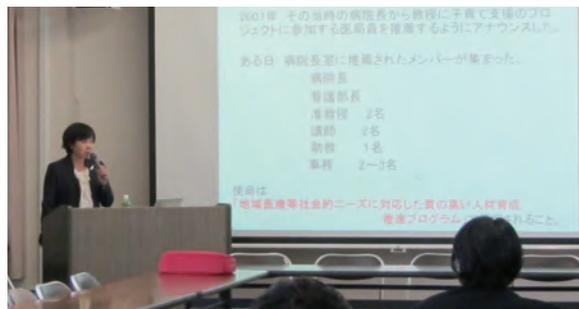
インタビュー全文はスプレウェブサイトに掲載しております。 <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

平成30年3月15日 「男女共同参画に係る教員向け研修」を開催

本学医学部附属病院信州がんセンター緩和部門教授の間宮敬子先生をお迎えし、「旭川医科大学二輪草センターでの活動を通して学んだこと」と題し、講演いただき、合計30名の教員が参加しました。

ボトムアップで進めた取り組み例を発表され、職員全体が「当事者意識」をもって取り組んだ結果、女性医師や女性教員の増加や、看護師の離職率低下といった成果が見られ、組織全体が変化していったと語られました。

講演後は意見交換を行い、サポート制度が整うことでより働くことを求められるのではという危惧や、現在育児をするうえで困っていることなど、率直な質問や意見が出されました。その後のアンケートでは、こうした意見交換の機会を持ち、要望や意見をどんどん吸い上げてほしいとの意見もありました。



女性活躍推進法に基づく情報の公表

女性活躍推進法に基づき以下の情報を公表致します。

1. 採用した常勤教員に占める女性教員の割合 (平成28年4月1日～平成30年3月1日)

男性	女性	女性教員採用比率
120人	34人	22.1%

2. 管理職に占める女性労働者の割合

基準日	管理職数	うち女性数	女性比率
平成30年4月1日現在	126人	16人	12.7%
平成29年4月1日現在	124人	16人	12.9%

3. 役員に占める女性労働者の割合 (平成30年4月1日時点) 22.2% (2人) (役員総数9人)

なお、本学の女性活躍推進に関する情報は、男女共同参画推進センターウェブサイト (<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>) および厚生労働省「女性の活躍推進企業データベース」でも公開しています。



平成30年度ベビーシッター派遣事業割引券の配布を始めました。

内閣府で実施し、公益社団法人全国保育サービス協会が運営する「ベビーシッター派遣事業 割引券」の平成30年度分の配付を開始しました。利用をご希望の教職員は、申込書に必要事項を記入のうえ、男女共同参画推進センターまでご提出ください。

詳しくはこちら <http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/support/babysitter.html>

イクボス宣言を更新しました。

平成30年4月の人事異動に伴い、イクボス宣言を更新しました。宣言内容は男女共同参画推進センターのウェブサイトからご覧ください。
<http://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/iku-boss/>

平成30年度(4-9月期)研究補助者制度の利用者が決定しました。

本学の研究者が育児や介護等のライフイベントと研究活動を両立できるよう、平成30年度(4-9月期)も研究補助者制度の利用希望者を募集し、厳正な審査の上、利用者を決定しました。

選考結果 利用者11名(女性10名、男性1名)

平成30年度(10-3月期)の申請を受け付けています。(締切: 8月3日)

研究補助者制度は原則、年に2回(7月、1月)の募集としておりますが、家族に突発的な介護が必要になった場合など、柔軟に対応しておりますので、男女共同参画推進センターまでご相談ください。



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

妻は専業主婦のため家事や育児のほとんどは妻にお願いしていますが、勤務日は息子が起きている間に帰宅するようにして少しの間でも一緒に遊んだあと寝かしつけたり、当直明けの日でも幼稚園のお迎えに行くなどして時間を共有しています。休日は外へ出掛けてサッカーなどして思い切り楽しんでいます。



息子は以前からトミカシリーズが好きですが、現在はどちらかというとおままごとをするのがブームで、幼稚園では女の子の集団に混じってお父さん役をやったりするようです。おままごとって女の子っぽいなと最初は思っていま

上條 泰 先生

医学部救急集中治療医学教室



家族構成

妻・長男(4歳)

あなたのリラックス方法は?

家族旅行

したが、おままごとの効果なのか最近では気配り上手で優しい子に育っているように感じます。

私がドクターヘリに乗務する日、息子はドクターヘリを見つけると大声で応援してくれているようです。ヘリから松本市街の景色を眺める時は、そんな様子を想像しながら仕事への活力に繋げています。



次回はこの方!

山田 利恵子先生
医学部麻酔蘇生科学教室 医員

お問い合わせ
信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒380-8544
長野市西長野 6-口
内線 831-4018

工学部分室
〒380-8533
長野市若里 4-1-1
内線 821-5693

農学部分室
〒399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5358

信州大学 スフレ

検索

